



猪高の森自然観察だより 2025・2月号

開催日時：2025年2月23日（日）

天候：晴 気温：最低-2.3℃、最高8.7℃

（名古屋に於いて）

参加者：13名（内NACS-J会員3名）

（画像は猪高緑地以外で写したものを含んでいます）

テーマ：春の息吹を探して見よう（左上の画像はハランの実）

コース予定：森の集会所 → シダレザクラの里 → 塚ノ杵池堤体 → 枕木道 → すりばち池
（ここで一旦解散） → 枕木道 → 森の集会所

<https://sizen.ciao.jp/introduction/itakaleaflet20220112.pdf>（猪高緑地の地図参照）

2月に入り、初旬と中旬から下旬にかけて厳しい寒さが到着、1月に3月並みの最高気温が続いたのとは対照的です。北日本や日本海側では記録的な豪雪が続き、落雪などで死者が出、雪崩によって孤立した地域もあります。

生き物たちの活動も、植物についてはほとんど1月と同様の状態にみえますが、早咲きの梅などは開花をはじめました。小鳥たちも混群を解消し、さえずりを始めています。例年に比べてかなりゆっくりですが、少しずつでも春になっていくようです。

又、この2月は雨が非常に少なく、27日時点で平年の26%・16.5ミリの降水量です。乾燥した月でした。12～2月の積算降水量も過去26年間で最少です。

○桜・600℃の法則とは？



これは東京の靖国神社にある桜の標本木の話です。（と前置きしておきます。）

2月1日を「休眠打破」の日として起算して、最高気温の値を積算していくと600℃になった時点で桜が開花する法則のことです。2010年～2022年の13年間の結果では、その誤差はプラスマイナス3日とのことです。さて今年の桜の開花は、「卒業式」なのか「入学式」なのか、どうなると思いますか？3月24日頃が予想されています。

す。

猪高緑地で一番早く咲く桜は「河津桜」ですが、本場の静岡・河津町でも今年の開花は例年2月上旬を2月下旬に変更しています。3月の観察会の時は流石に終わっているでしょうか！？ シダレザクラは楽しめそうですね。

○小さな春、見つけた！

南側の日当たりの良い所や落ち葉の下などで、春の準備はもう始まっています。



ナズナ（開花）



オオイヌノフグリ（開花）



チチコグサモドキ？



ヤエムグラとアメリカカワロ



エンドウの仲間



セイタカアワダチソウ



虫こぶ：クヌギハケタマフシ

○アベマキの葉の裏側についていました。

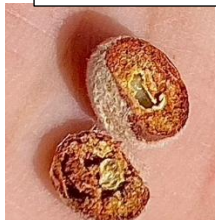
これは「クヌギハケタマフシ」と呼ばれる虫こぶの仲間です。作ったのは「クヌギハケタマバチ」。このタマバチは体長3ミリのごく小さなハチで、春にはクヌギやアベマキの雄花に「クヌギハナカイメンフシ」と呼ばれる別の虫こぶを作ります。このカイメンフシから生まれた成虫はオスとメスがありますが、このケタマフシから生まれたハチはメスだけしかいません。つまり、1種類のハチに両性世代と単性世代があり、それぞれが別の虫こぶを作っているのです。

このタマフシを割ってみると小部屋にそれぞれ1匹の幼虫がはいていました。実はこのタマバチはこの時期は成虫で冬越しをしているはず・・・。

温暖化の影響か、生育に何か支障があったのか、疑問

はつきません。このタマバチについては、

<https://prtines.jp/main/html/rd/p/000000226.000047048.html> に載っていますのでご覧になってください。



割ると中に小部屋



一粒に1匹の幼虫

○同じアベマキにこんなものも・・・。



ヤママユガの卵と思われます。



終齢幼虫も黄緑色



黄緑色の繭

これはヤママユガの卵と思われます。

ヤママユガは、日本在来の野生の蚕で「天蚕（てんさん）」とも呼ばれます。

成虫は、翅を広げると 13～15 cmにもなる大きな蛾



成虫は翅の広がりか 13～15 cmの大きな蛾

で、幼虫も黄緑色、繭も美しい黄緑色です。成虫の色合いには変異がありますので、画像は一例とお考えください。注目されるのは繭から取れる「天蚕糸」と呼ばれる糸です。

「天蚕糸」は一般の蚕（家蚕）から取れる絹糸に比べ軽くしなやかで、皴になりかなく、保温性にも優れるなどの性質があり、注目はされていたのですが、育てるのがカイコに比べて難しく、一部の地域でしか生産されていません。現在でも糸の価格は、生糸の 100 倍もするそうです。

成虫は、8月頃に羽化します。まだ1回しか見たことはありません。惚れ惚れする程大きく美しい（個人の感想ですが・・・）ので、また出会いたいと思っています。

ヤママユガについては、

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005400135_00000

<https://azumino-maki.com/tensan>

<https://www.naro.affrc.go.jp/archive/nias/silkwave/hiroba/Library/tensan/tensan.htm> などをご覧になっていただくと良いでしょう。

○キリの種は風で飛ぶ！



5月の花

二つに割れた莢は中に仕切りがあった。

塚ノ杵池の堤体東端近くにキリの樹があります。5月頃にきれいな青紫色の花を咲かせますが、秋から冬にかけては、その花が実を結び、種を飛ばします。

二つに割れた実の中には種がぎっしり！ひとつの莢の中には、数百～数千の種が入っているとされます。

昔からタンスの木材として加工し易く、断熱効果もあり、日本では有用材として扱われていたキリですが、アメリカでは駆除すべき外来種として扱われているとのことです。



中には種がぎっしり！1メモリは1mm



種の形はチョウが翅を広げた様！

○オニグルミの葉痕は羊の顔！？



葉痕は羊の顔！？

すり鉢池の池端に1本のオニグルミがあります。この葉痕が「羊の顔」をしているので、毎年見にくるのですが、このオニグルミは昨年初めて実を結びました。



ユニークな雌花

ということは、左の画像のような雌花が咲いていたはずですが、実が成って初めて気が付いたので、確認ができませんでした。こんなユニークな花を見逃したのです。今年は必ず見たいと思います。

(一部の人は確認していたようですが・・・。ちなみにオニグルミは、同じ株に雌花と雄花が別々に咲きます。)

○メジロの巣の材料は？



昨春、使われたであろうメジロの巣を見つけました。巣の材料は、シュロの皮の繊維、コケ、クモの巣、ビニール紐の切れ端などなど。

直径 10 cm 程度の小さな巣ですが、1 回に産む卵の数は 2~4 個とのことです。一般に野生の鳥類の幼鳥の生存率は 40% 以下とされています。昨年の春から夏にかけてこの巣から巣立ちを迎えられた雛たちは何羽だったのでしょうか。



2月15日アーチェリー場横の紅梅が咲いていました。隣にあった白梅はまだ堅いつぼみのままでした。。



昨年の3月27日のシダレザクラ満開は3月31日でした。今年はずっと見られるといいですね。



次回観察会は3月23日（日）森の集会所集合 9:30~です。

名東自然倶楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<https://sizen.ciao.jp/>から是非ご覧になってください。

(右上の自然観察グループをクリックしてください。)

外来種ムネアカハラビロカマキリの卵鞘
在来種のハラビロカマキリが駆逐されている。